



1位 新発田城カントリー倶楽部 / 475



2位 柏崎カントリークラブ / 482



3位 下田城カントリー倶楽部 / 484



大会会長の齋藤文志郎KGA常務理事。



小千谷CCの中野洋一支配人。



小千谷CCの星野徹也理事長。



Aクラスベストスコア賞の三ヶ月耕一選手。



Aクラスベストスコア賞の小林健治選手。



Bクラスベストスコア賞の川崎治選手。

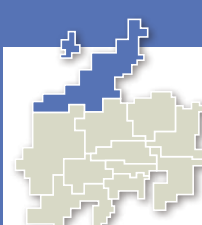


三宮勇雄KGA競技委員は柏崎黒姫CCの支配人。



難グリーンに
苦戦する選手たち

新潟
第2ブロック
平成23年5月26日(木)



小千谷カントリークラブ パットの優劣が勝敗を分け 最終競技者で決勝進出が決まる

本年度から新潟県の倶楽部対抗予選競技は2ブロックに別れての開催となり、小千谷CCは5月26日の開催となりました。

今年は例年になく雪が多く、コースオープンが4月27日までずれ込み、昨年より半月遅いオープンとなったため、芝の生育状態が心配されましたが、満足のいく状態で倶楽部対抗予選競技を迎えることができました。

大会当日は天候晴れ、微風、気温は20度と、競技を行うには絶好のコンディションとなり、応援団はさすがに中での応援となりましたが、選手たちにはそうはいかなかったようです。

刈り高4ミに転圧をかけたグリーンは思ったより速く、ピン上からのパットは触るだけ。横からのラインも大きく曲がり多くの選手が3パットになり、前半は3時間近いペースでのラウンドになってしまいました。コース側としては、少し反省しないといけない点でした。

そんな状況の中、優勝した新発田城CCの川崎治選手(Bクラス)が73ストロークのベストスコアをマーク、2位に3打差をつけて、団体優勝に大きく貢献しました。

Aクラスでは77ストロークでイーストヒルGCの三ヶ月耕一選手と新潟GCの小林健治選手が、それぞれベストスコアをマークしました。

優勝した新発田城CCは70台が2人、80台前半が4人とスコアをまとめたのが、2位の柏崎CCに7打差をつけた勝因と思われます。3位と4位の争いは熾烈で、最後の選手がホールアウトするまで決まらず、下田城CCの押見正司選手が77でホールアウト。見事逆転で下田城CCが、関東倶楽部対抗決勝競技進出を決めました。

6723で決して長くはないコースでしたが、70台で回った選手が18人と少なかったのは、選手たちが、グリーンの速さに苦しんだからのようです。グリーンを制した倶楽部の代表選手が、栄冠を手にしたのでしょうか。

(小千谷CC・田村敏明)

開催倶楽部、小千谷CCの代表選手と関係者の皆様。



決勝進出倶楽部が最後までつれ、成績掲示板の前で一喜一憂。

